



障がい児の自立支援を

profile

昭和 56 年 10 月 13 日生まれ。妻の美穂さんも児童発達支援管理責任者として運営に参加。趣味はパワーリフティング。国内上位の成績で世界大会での日本代表を目指す。温泉 8 区在住。36 歳。

Spotlight

スポットライト



ほみいくらぶ 代表

齋藤学さん

町 内初となる障がいがある児童の支援をする通所施設「ほみいくらぶ」を開設した齋藤さん。未就学児対象の児童発達支援と小・中・高校生対象の放課後等デイサービスを行っています。

以前は伊達市で、障がいのある児童を支援する会社に勤めていましたが、洞爺湖町から通っている児童も多く、「支援の施設が遠くて、送り迎えが大変」など保護者の苦勞している声を直接聞き、会

社を退職し町内で合同会社「Homey」を設立。自らの子どもも障がい児であり、「同じ境遇で困っている人たちの役に立ちたい」という思いが背中を押しました。

町内を歩きまわり空き家を探した結果、給食センターの隣にある臨床検査に使われていた民間の建物を取得。1日の定員を10人として、平日、土曜日に開設、今後は夏休みや冬休みも対応していくことにしています。

施設では、料理、洗濯、掃除といった日常生活の訓練とトランポリンやマット運動などの体育、さまざまな行事を通して、自立した生活と健康な身体を身につけられるよう支援しています。また、保護者の負担を考えて送迎の相談にも応じ、現在は町内だけでなく室蘭市への送迎も行っています。

3月の延べ利用者が、スタートした2月の2倍を超えるなど町内でのニーズの多さを実感し、「支援を必要としている児童や保護者に喜んでもらい、将来の自立に向けてお手伝いできれば」と思いを強くしています。

「子どもの支援だけに終わらず、グループホームの設立や就労支援まで視野に入れて支援の輪を広げていきたい」と子どもの時だけの一過性のものではなく、生涯を通じたケアを考えています。

「地元で障がいを持った人が自立して、地域とつながった生活を営めるように手助けしていきたい」

東奔西走



初 めまして。今年度から採用となり、広報に配属になりました。できることを一つずつ確実に増やし、常に向上心を持ち、取り組みます。よろしくお願いします。(C. K)

5 月号から表紙と裏表紙がカラーになりました。表紙の写真がカラーなので、今まで以上にカメラの腕が試されますね。もっと勉強して、いい写真が撮れるようにがんばります。(H. S)

今月のワンショット



喜びいっぱい1年生
—洞爺湖温泉小学校入学式—